

知るところから、はじめよう

クマの人身被害を防ぐために

ツキノワグマ

長い歳月を旅に
費やす「森の旅人」

【鼻がイイ！】

クマの五感の中で特徴的なのは嗅覚の鋭さ。でも視力はいまいちです。

両手を振りながら歌うくらいの事をしないと、ヒトの存在を認識できない場合もあります。

目は、良くない。



【手先が器用】

クマの脚は人間と同じ、かかとが地面につく蹠行性（しよくせい）です。

この歩き方の利点は体重を後ろ脚だけで支えて、前脚をフリーにできる事。

前脚を活かして木登りしたり、朽ち木や大岩をどかし、下に隠れたアリ等を食べています。

クマの人身事故では、噛まれる事より殴られる事による事故が重傷化しやすいです。

【守るために戦う】

臆病な性質が目立つツキノワグマですが、エサや子供を「守るため」に、攻撃に打って出る場合があります。

特に、オスによる「子殺し」から子供を守るため、この特徴は子育て中のメスに顕著です。

←子供の近くには母親もいるため、もし子グマを見かけても絶対に近づかないようにしましょう。



【旅暮らしを支えるのは、社会性と記憶力】

ツキノワグマは様々な食べ物を求めて、広い範囲を移動して暮らしています。

自分のエサが盗られない限りは、他のクマに比較的寛容です。

よりよいエサを常に求めているため、好奇心旺盛で食べた事がない物でも果敢に口に入れてみます。

そして、一度覚えたエサの味と場所は忘れません。

優れた記憶力を頼りに、旅をしています。

【逃げるなら樹上や穴ぐら？】

ツキノワグマの母親は、子供に危険が迫った時に子供を樹上や穴に隠して戦う事があります。

大人のツキノワグマにも「隠れて敵をやり過ごそうとする性質」が残っているとされており、樹上や穴ぐらに似た環境はクマにとって「安心できる場所」になると考えられています。



←樹上に似た階段の上（敵が来にくい高い所）を逃げ場として好みます。

樹洞や穴ぐらに似た物置や小屋など（狭くて暗い所）→にも逃げ込もうとします。



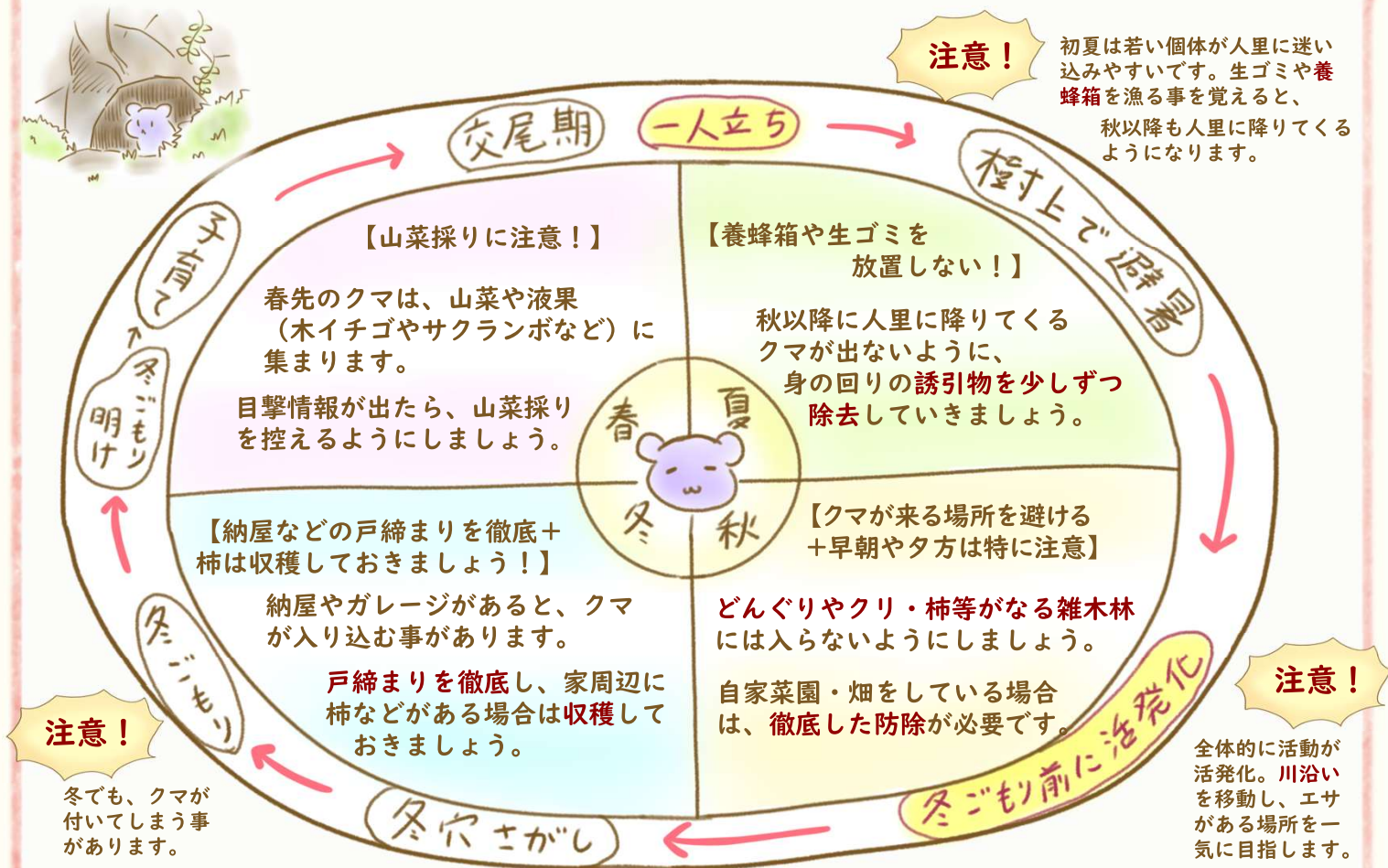
【クマの一年】

クマの行動には季節性があるため、被害の場所や内容にはある程度の規則性があります。また、特に初夏や秋の季節は、クマの行動範囲が広がるため注意が必要です。



注意！

初夏は若い個体が入里に迷い込みやすいです。生ゴミや養蜂箱を漁る事を覚えると、秋以降も入里に降りてくるようになります。



【クマと遭遇してしまったら…】

鉄則1：クマを刺激しない

クマも「できればトラブルは避けたい」というのが本音です。攻撃したり、大声で威嚇したり、急な動きをするとクマが驚いて反撃しようとするため、絶対にクマを刺激しないようにしましょう。

鉄則2：ゆっくりその場から離れる

クマは逃げるモノを追う習性があります。クマに背を向けないようにして、ゆっくりと距離を空けましょう。十分に距離が空くと、クマの方から去っていくケースが多いです。

最終手段：防御姿勢

急所（顔・頸部・腹部）を守るために「防御姿勢」をとりましょう。

攻撃が顔や首の正面・背骨に当たらないように腕で守り、可能であれば地面に伏せて下さい。



【クマと遭遇しないために】

・クマが出そうな場所では注意する

クマのいる山に入るときは、鈴などの音の出るものを身につけましょう。
単独行動、早朝や夕方、天気の良い日を避けて行動するのも有効です。クマ撃退するスプレーを準備しておくと、より安心です。

・クマが寄り付きにくい環境をつくる

クマはよいエサがある場所や、潜みやすい場所を好みます。不要なカキやクリの木は伐採したり、林縁や河川沿いのヤブを刈り払う事で、クマの侵入を予防する事ができます。

